
一ツ之日記

イズミス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

一ツ之日記

【Nコード】

N3208Q

【作者名】

イズミス

【あらすじ】

主人公の佐々木信吾はいたって普通の高校生だが、妙なことをさせられる。謎の人物（？）によって、新たな課題が出される。

「そんな性格じゃ直し様がないな。俺なら間違えなく死んでる。」
「勝手に死んでろ。」

俺の名前は、佐々木信吾^{ささきしんご} 普通の高校生だ。そう、普通の……。先ほど言った言葉を真に受けている、6年間の親友^{バカ}は松本裕希^{まつもとゆうき} 冬は寒い。この我が北の国は暖房なしじゃあ室内の水が凍って酷い目に合う。でも、ハイテクな高校だからそんなことはありえんだろ。今日も六時限目が終わった。正直授業がめんどくさい。

「学校よ……。なくなってくれ」
そう思う。

「はは、またベットの下はそんなこと言ってるのか…やれやれ」
「その呼び方やめろ、地球破壊する力でお前を殴るぞ」
なぜ、ベットの下というニクネームかというと…。健全な男子高生ならわかるだろう。

自分は中学の同級生だった奴に預かってくれと言われて、勝手に家に上がりこんだバカがブツを見つけたということだ。

「んじゃ、バイト行くから。部活は適当に休むって言っといてくれ。じゃあなーまっつん」

「んー、了解」

さてと、そうと決まればこんなところに用はない。帰るか…。

この学校の階段はきつい。なんで一年が四階なんだよ、とまで思う。だいたい二階の階段に差し掛かった時、聞き慣れた声が聞こえた。

「信吾、今日来ないと明日射殺されるかもね」

なんて縁起の悪いことを。射殺の前に銃刀法違反で捕まるだろ。

「帰る気？」

「愛サン、ヤスンデモ、ヨロシイデスカ」

「駄目、休んだらほんと来なくなるでしょ」

「はあ…。はいはい、いけばいいんだろ」

バイトの時間は午後七時半。今の時刻は四時。部活終了時間は六時半。部活を終えてからでもバイトは間に合う。

仕方ない、平井藍ひらいあいに付き合っあてやるか。

「あーテンポキープするのめんどくせえ」

「それが仕事でしょ、だいたい入部が4月でもう7月なのに16ピートもできないほうがおかしいのよ」

吹奏楽部というのはめんどくさいな。可愛い子がいたから入ったというのに。これがオチか。

「しかたねえだろ、休んでたんだから。そもそもなあ、おれの本職がギター様だぞ」

「はいはい、屁理屈行つてる暇があつたらやること。てゆうか、あんたギターもコードくらいしかわからないでしょ」

「あーうつせー、てかさー曲順もしらないんだけど」

「楽譜順。それとプリントに日時書いてるから。以上」

何々…。

演奏曲4曲日時7月10日。

……………は？

いやいや、今日7月2日であと1週間しかないんですが…。
仮病。そうか！風邪をひけばいいのか。うん、そうしよう。

「声に出てるわよ」

「そうかあ…。明日から頑張る。んじゃ、バイトだから」
そう言って光回線並みのスピードで去って行った。

金のためとはいえ、コンビニのレジ打ちはめんどいな。

今日は給料日か…。本当に疲れる。

俺の働いてる店はつくづくおかしいと思う。給料日が月末じゃない

し、店長なんて仕事しないでおでんの汁ばかりすすってる。ほかの店員は半分寝ぼけてるし。

9時半。そろそろ交代か。店長に金貰って帰るか…。

「店長。給料ください」

「ああ、悪かったね。はいこれ先月分」

8万5000円+おでんの汁が若干染みついている。店長、やめてくれ。

「よし、貰うもの貰ったし、飲みもん買って帰るか」

友達との付き合いがあまりない。だから、まっすぐ家に帰ってゆつくりできる。

「ただいまー って誰もいねえか」

父親は出張。母親は、隣のおばさんと旅行。妹の絵里は女友達の家。

「はあ… テレビも面白くねえし、寝るか」

午後十一時。俺は眠りについた。

「あのさーちよつといいかな？」

誰だお前。てかここどこだよ。

「夢の中なんだけど、理解できる？」

夢か。なら大丈夫だろう。

「ああ、わかったよ、で、おれに何の用？」

「えつとね、ここに偉い人が残した本があるんだけど…。これは読んでその決まりを守ってほしいんだ。1日1つ。守らないと大変なことになっちゃうから。」

なんで、おれなんだ？ まあ一応見てみるか。

・其の一、最低5人と関わりを持って

結構きついな、でも一応頑張ってみるか。

「ちなみに、大変なこととは？ 爆死するくらい？」

「もつと大変でめんどくさいこと」

なるほど、極力守るか。
「んじゃ、頑張つてね」

朝が迎えた、1日が始まる。

（後書き）

作者のイズミスです。マジで文章ksなんですみませんorz
最初はひきこもりを作成する話にしようとおもったのですが、文章
の進行がいまいちだったので変えました。

ここまで見てくださいったかたはありがとうございます。
続編をまっている方がいらっしゃれば、書きます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3208q/>

一ツ之日記

2011年1月26日14時32分発行